

一昨日、集いの部屋から外へ出ようとすると、ドアが開きません。正面玄関から回ってみると、1 分近い雪がつもっていました。昨夜10時頃までは満点の星だったのに。久しぶりに雪の恐ろしさを知りました。駐車場まで、まさに雪山同様（3日前に飯綱登山をしてきたばかり）ラッセルしながら、ようやく除雪車までたどり着き、除雪開始。ほっとしながら、その雪の深さに再度驚きました。その横に、末っ子がまだ道なき道を新聞配達に出かけましたが、しばらくして戻ってきて道がないと弱音を吐きましたが、こちらも除雪に懸命なので、そのまま行けと言うしかありませんでした。

とにかく、久しぶりに、雪の厳しさを味わいましたが、まだまだ厳しい雪が続きます。これだけ降れば、さすがにクロカンも厳しいですね。青い空を期待して、ふかふかの雪遊びを待ちたいと思います。

## 【同窓生】

長男の帰国と文庫火災で、年始からとても懐かしい人たちや、大きくなった子ども達が、連日訪れてきています。皆、10年から15年ぶりの人たちが多く、それだけでもとても嬉しいことが続きました。

長男や長女はとてもフレンドリーな性格で、とても仲が良く、幼稚園時代も一緒だったので、共通の同窓生も多く、火災のお見舞いで来てくれた同窓生ともすぐに盛り上がり、一緒に遊ぼうとか今度遊びに行こうとか言って、すぐに当時のアルバムを持ってきて開き、当時のそのままの光景を見せてくれています。



先日は、なんと一期生が半分も集まり、2階の自宅で、開園当時のアルバムを開いて盛り上がり、家族同様に保育していたので、私たちもとても懐かしく、子ども達もよく覚えていました。中には、15年ぶりの子どももいて、街で会っても、絶対わからないでしょというタイプは、やはり女の子ですね。午後は、絵本ボランティアだったので、丁度いい機会なので、このOB達にも協力してもらおうと声を掛けると、待ちましたとばかり、喜んで子ども達の場所に入って行きました。さすがにOBだけに、子ども達に大人気。皆、働いているのに「明日も来てね」と言われて、返事に困っていました。

その夕方、やはり長男の世界一周の話になり、山はいいよなどと盛り上がり、3日前に私と長男と次男で言った雪の飯綱山でのスゴイ体験を話している中で、今度一緒に登ろうよなどと冗談半分に長男が話したところ、どう見ても体育会系ではない暮らしをしているでしょう という女の子（ののかを含め）達も、幼稚園時代のノリの良さで、行くことに決定していました。

3日後、長男と長女と女の子（皆、一つ違い）は朝早く出かけていきました。女の子は飯綱に住んでいるので、迎えに行くので、シャツ2枚位の軽装備。あわてて、本格的雪山仕様に着替えさせ、出発したらいい。前夜の雪で、既存ルートはすっかり消えて、ポールで道を探り当てながら、ラッセルしたらいい。予想の反して、ののかのハッスルぶりはすごかったらしく、先頭の景色のすばらしさを譲るわけにはいかなく、辛いラッセルも喜んで進んだらしい。さすが、昨年夏の山小屋がきいているのか。もう一人の女の子も、めちゃくちゃ楽しかったらしい。登りは、5時間、下りは、おしり滑りで1時間半。帰りが特に楽しかったらしい。

ノノカは、登山口から仕事へ向かい、長男と女の子は、天狗の館で温泉につかり、そのまま大地へ来て、夜遅くまで盛り上がり話していった。当時を思い浮かべて、私たち夫婦は、とても幸せな気分でした。

そして、翌日のののか給食。昨晩は、登山でのののかと打ち合わせなく、当日は大雪で、全く打ち合わせがありませんでした。長男が協力すると言うことで、すっかりお任せしました。除雪が難航して、給食に入った時は、既に皆、テーブルについていました。その雰囲気と演出と流れと会話は、まさにさすが大地OB。ファンタジックなおおぼらを吹きながら、子ども達はどんどんその世界に引き込まれていきました。私が幼児だったら、まさにこれは楽しいだろうという実感で、久しぶりに私はほぼ出番なしで、楽しんでいました。

これらの大地OB 達との出会いや一緒に暮らす中で、やはり、幼児教育の会心のおもしろさや実感やその魅力は、ここにあるなと実感しました。これがあるから、面白いんだ、奥が深いな、やりがいを感じるんだな と思いました。幼児時代に共通体験があると、久しぶりに出会っても、すぐにそこに戻れて、親交が深まり、同じオーラで話しが弾み、盛り上がりしてしまう雰囲気。「幼稚園時代の友だちとこんなに今でも遊べるなんて、普通の保育園では考えられないね」と親も子ども達も口々に言ってくれます。

また、ファンタジックな冗談も、大きくなっても理解してくれて、その子達自身も、子ども達を前にしても、そんな言葉や会話を自然に出して、遊んでくれます。

更に、自然の中で遊ぼうと誘ったり、絵本を読もうと誘っても、すぐに反応してくれて、当時の無邪気な気持ちや心を素直に出してくれます。

これは、かなり手前味噌ですが、これは、大地時代に一緒に暮らしを共にして、親子共々、面白いことを真剣に楽しんだ結果かも知れません。子ども達は、本当に良く覚えていてくれています。2階の自宅に来て、全く私たちに気兼ねすることなく、自然に家族のように、子ども達同士盛り上がり、そして、帰り際にまた絶対遊ぼう とか私も 外国へ旅に出たい と言って帰っていき、大地のオーラが、成人しての子ども達に再度、浸透していく実感を楽しんでいます。その中で、しっかりと、お互いの人生観を確かめ、考えあっているところも素晴らしいところです。

やはり、シュタイナー教育にあるように、自由への教育（自由な教育）・・・すなわち、成人してからどのように生きるかを目指して（成人後の姿をイメージして）、幼児や小学生時代をどのように過ごしていくか という 自由への教育。その姿を、大地20年が過ぎようとしている中で、大地OB を見て、確かな手応えを感じている日々です。

しかしながら、我が家の長男も再び、そして、長女も次男も、この4月前後には、旅立つことを思うと、複雑な青山家です。